



03



牛・豚・鶏には、どんな食べ物が与えられているの？

A

一般的に、牛には牧草などの粗飼料と、穀物などを原料とする濃厚飼料の2種類が与えられ、豚や鶏には濃厚飼料のみが与えられています。



牛などの家畜の食べ物である飼料は、飼料作物や野草などを原料とする「粗飼料」と穀物などを原料とする「濃厚飼料」に大別されます。一般的に、牛には粗飼料と濃厚飼料の両方が与えられますが、豚や鶏には主に濃厚飼料のみが与えられます。

飼料の種類

飼料は、粗飼料と濃厚飼料に大別されます。

粗飼料

●飼料作物、野草、わらなどから作られ、牛の消化器の機能を安定させるために不可欠な繊維質を多く含んでいます。

●代表的な飼料作物としては、イタリアンライグラス、オーチャードグラス、チモシー（米国・カナダ産）などのイネ科牧草、アルファルファ（米国产）、クローバーなどのマメ科牧草、青刈りトウモロコシ（実が熟す前に刈り取ったトウモロコシ）などがあります。

●粗飼料は、加工方法の違いによって、①生草（刈り取っただけの野草や牧草）、②乾草（野草や牧草を乾燥させたもの）、③サイレージ（牧草や青刈りトウモロコシを発酵させたもの）と大きく3つの種類に区分されます。



チモシー

バレーヘイ

濃厚飼料

●主に、①大麦・トウモロコシ・大豆などの穀類、②フスマや米ヌカなどの糟糠類、③食用油を製造する際に発生する油粕類、④脱脂粉乳や魚粉の動物性原料から作られ、タンパク質、炭水化物、脂肪を多く含んでいます。

●濃厚飼料の多くは、複数の原料を混合した上で、粉状やペレット状にした配合飼料の形で家畜に給与されます。

●配合飼料は、家畜の種類、発育段階などに応じて栄養分を調整することが容易なので、飼料会社は様々な配合飼料を販売しています。



牛の濃厚飼料

豚の濃厚飼料



なお、現状（平成22年度概算）における粗飼料の自給率は78%、濃厚飼料の自給率は10%となっており、飼料全体での自給率は25%に留まっています。これを平成27年度には、粗飼料の自給率を100%、濃厚飼料の自給率を14%、全体の飼料自給率として35%まで上昇させることが目標となっています。





03



「牛・豚・鶏には、どんな食べ物 が与えられているの？」

前ページの
続きです



牛に給与される飼料

●反芻動物（胃を4つ持つ動物）である牛は、粗飼料のみで飼育することが可能ですが、早く太らせたり、サシの入った良質な牛肉を生産するためには濃厚飼料を給与することが必要です。

●また、牛が必要とする栄養分は、成長段階や飼育目的によって異なり、かつ、濃厚飼料の過剰給与は病気の原因となります。このため、粗飼料と濃厚飼料の給与量は、生産者の重要なノウハウとなっています。



豚に給与される飼料

●人と同じように胃が1つしかなく、生まれてから半年程度で出荷される豚には、特別な場合を除き、濃厚飼料のみが給与されます。

●また、大規模化が進む養豚においては、多くの生産者が飼料会社から購入した濃厚飼料を給与しています。

●なお、豚が必要とする栄養分も成長段階や飼育目的によって異なるため、飼料会社は「子豚用」、「肉豚用」、「繁殖豚用」など多様な飼料を製造しています。



鶏に給与される飼料

●鶏肉生産の大部分を占めるブロイラーは、ふ化してから2カ月弱で出荷されることから、ほとんどの場合濃厚飼料が給与されます。

●なお、鶏が必要とする栄養分も成長段階

や飼育目的によって異なり、栄養に偏りがあると、育成に影響が出たり、病気になったりしてしまいます。

濃厚飼料における衛生管理

飼料の原料となるトウモロコシ・大豆などの穀類の多くは海外から輸入され、大型のサイロ（飼料等を蔵置・収蔵する倉庫）に一時保管された後に飼料工場へと運ばれます。多くの飼料工場では、制御室からの遠隔操作により原料の加工がされるので、人間の手や外気に触れることがありません。

製造工程においては、特殊な機械により発せられた高い熱により、原料に付着した細菌を殺菌します。また、カビの発生の原因となる飼料に含まれる水分量についても徹底した管理がなされています。また、製造された飼料のサンプルを一時保存し、検査室において細菌や異物が混入されていないかなどの検査もされるなど、徹底した衛生管理がなされています。

